

- ◆日時：2014年3月27日（木）午後2時～6時
- ◆会場：東京理科大学神楽坂キャンパス8号館3階 831教室
- ◆趣旨：スイスの作家ヨハンナ・シュペーリの『ハイジ』は、50以上の言語に翻訳され、児童文学の古典として今も愛読されている。日本で制作されたTVアニメも世界各国で人気を博した。スイス／ドイツ／日本の専門家を招いて開催するこのシンポジウムでは、シュペーリの作品が生まれ、受け容れられた文化史的・社会史的背景を探りながら、シュペーリ文学と『ハイジ』の今日的な意味を考える。

14:00	開場【展示あり】	
14:30	開会あいさつ、シンポジウムの趣旨	川島 隆 (京都大学准教授)
	パネル講演：	
14:45	① ヨハンナ・シュペーリの初期作品をめぐって	ペーター・ビュトナー (北京航空航天大学講師)
15:30	② 「郷愁」の文化史とシュペーリの『ハイジ』	アルフレート・メッサーリ (チューリヒ大学教授)
16:15	休憩	
16:30	③ スタジオジブリの出発点としてのアニメ『アルプスの少女ハイジ』	西岡 亜紀 (東京経済大学特任講師)
17:00	ディスカッション	

※講演はドイツ語（通訳あり）と日本語で行われます

東京理科大学神楽坂校舎

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3

参加費：無料 参加申込：不要

問合せ先(主催者): 日本ハイジ児童文学研究会 kawashima.takashi.7v@kyoto-u.ac.jp

後援: 在日スイス大使館



- JR総武線 飯田橋駅下車 徒歩7分 （※市ヶ谷寄りの車両が便利です）
- 地下鉄有楽町線・南北線 飯田橋駅下車 西口から徒歩7分
- 地下鉄大江戸線・東西線 飯田橋駅下車徒歩15分（※地下鉄はB3出口が便利です）